

編集発行責任者 飯田 誠

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2

TEL:03-3603-2111 (代表)

URL:<http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/>

### INDEX

01. 診療科紹介(脳神経外科)

02. 循環器内科 診療部長就任挨拶

03. 看護部長就任挨拶

04. 当院の認定・専門看護師の紹介

## 診療科紹介 / 脳神経外科

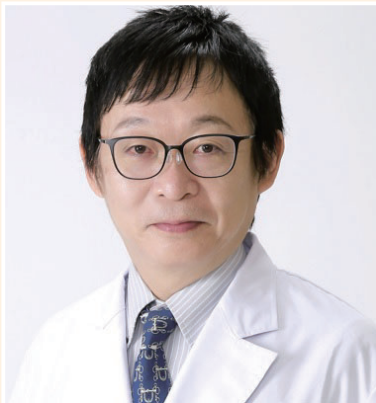
脳

神経外科では、脳・脊髄の腫瘍、脳・脊髄の血管障害、頭・背骨の外傷、正常圧水頭症、顔面痙攣、三叉神経痛、脊髄症やヘルニアなどの脊椎・脊髄疾患、難治性の痛みや痺れなどの病気を治療しています。脳動脈瘤、内頸動脈狭窄症、急性期の脳梗塞など中枢神経の血管の病気にはカテーテルを使った治療を積極的に行なっています。カテーテルを使うことにより、手術後の痛みがほとんど無く、入院日数も短くすむことが期待できます。また、物忘れ、歩きがおかしい、トイレに間に合わないなどの症状がでる特発性正常圧水頭症の治療にも積極的に取り組んでおり、毎週月曜午前に特発性正常圧水頭症の専門外来を行なっています。治療には脳に操作が及ばない腰椎-腹腔シャント手術を主に行なっています。

診療は4名の脳神経外科専門医を含む5名の常勤医師が担当しており、必要に応じて他の病院から専門家を招いて手術治療を行なっています。新橋にある慈恵医大本院をはじめ、他の病院と連携し、患者さんのご希望に沿った診療を行なっています。患者さんの治療に関しスタッフ全員で繰り返し検討し、患者さんに十分に説明したうえで、患者さんが納得できる安心・安全な治療を行なっております。



## 循環器内科 診療部長就任挨拶



循環器内科  
診療部長  
南井 孝介

# 2

2023年4月より葛飾医療センター循環器内科診療部長に就任いたしました1996年慈恵医大卒の南井孝介(みないこうすけ)と申します。

日本内科学会内科総合専門医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション学会名誉専門医、日本心臓リハビリテーション学会認定リハビリ指導士の資格を有しております。また日本腫瘍循環器学会の評議員もさせていただきます。

前任の本院には16年在籍しておりました。本院では虚血性心疾患を中心に5年間CCU病棟長として入院診療にあたり、続く5年は医局長として本院医局や関連病院医局員の調整を行い、その後は外来診療を中心に心不全や不整脈等循環器疾患全般を幅広く外来診療してまいりました。

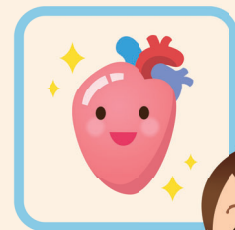
葛飾医療センターでは虚血性心疾患の血行再建(PCI)や高周波カテーテルアブレーション、徐脈性不整脈に対するペースメーカー留置等幅広い治療が可能です。

また23区内に存在する唯一の分院として本院とも密な医療連携を行っております。

さて、近年循環器疾患に対する医療費においては、心不全の占める割合は増加傾向で、特に高齢者の中ではさらに割合は高く、大きな問題となってきております。また手術や分子標的薬の進歩のおかげでがん患者さんの平均寿命が延びていく一方で、がん治療関連心不全(Cancer Therapeutics Related Cardiac Dysfunction: CTRCD)が問題となってきております。葛飾区は23区内の中でも高齢者の多い区であるとお聞きしております。

すなわち他の区に比して心不全患者の割合も当然多い事が想定されます。こういった患者さんを、包括的に診療できるよう努力してまいり所存でございます。

どうかよろしく申し上げます。



## 看護部長就任挨拶

# 今

年度より、前任の林由美看護部長より業務を引き継ぎ、葛飾医療センターの看護部長として着任いたしました。葛飾医療センターには、旧青戸病院時代に一度赴任してリニューアル事業に携わり2014年3月まで勤務しておりました。病院が掲げている『地域と共生し、進化・創造し続ける病院』を目指し、地域の医療ニーズに応えられるように看護師とともに日々努力をいたしていく所存でございます。

医療界も働き方改革が求められ、業務をタスクシフトすることが求められています。その状況下でも、看護師が医療チームの橋渡し役として役割を最大限に発揮し、地域に開かれた病院・安全安心を提供する病院を継続できるようにいたします。今年度の看護部は、「病院完結型から地域全体で治し支える地域完結型」への更なる進化を目標とし、患者さんの意思決定支援と患者さんが健康的な状態を自らつくりだせるために生活を支える支援に取り組んでいます。そのために、看護部内に健康な状態を自らつくりだすために看護師の関わりが必要とする方には、機会があればどのような暮らしを実現したいのか患者さんの思いを共有するところからはじまると伝えております。皆さまの期待に添えるように、看護部を運営して参ります。

当院では、PFM(Patient Flow Management)を更に磨き上げるために2年前より開設した「看護専門外来」を更に充実させ、外来通院時から治療を受けながら生活するときの困難さや、退院後の困りごとなどの解決に看護師と一緒に解決をしております。そのため、専門性の高い分野の看護師だけでなく、優れたジェネラリストの育成をし、そこに看護を必要としている患者さんがいるのなら、どんな患者(何科の患者)さんでも看護が提供できる看護師の育成にも力をいれております。また、入退院医療連携センターを窓口にも、地域と連絡・連携を引き続きとり、少しでも自宅での療養が安心できる状況で送れるようにしています。このように、大学病院として教育機関の機能も果たしつつ、今年度入職した看護師と一緒に経験豊かな看護師が地域の皆さまとのつながりをもてるように、更なる看護実践力に磨きをかけるよう努力を重ねております。

引き続き葛飾医療センターへのご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。



看護部長  
山下 正和



## 当院の認定・専門看護師の紹介

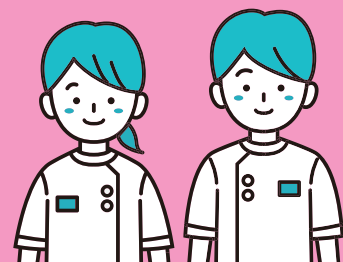
当院には、13分野18名の認定・専門看護師が在籍しており、院内において以下の活動を行っております。診療所や病院におかかりの患者さん・入院中患者さんの対応（生活支援や患者指導）に対するご相談、病院スタッフへの教育などのご要望、お困りの際は、ぜひお声がけください。

急性期	救急看護	客観的な視点で患者状況をアセスメントすることで、患者さんが急変する前に、看護師や医師と一緒に新たな治療介入の方向性を考えています。
	集中ケア	患者さんの病態変化における重篤化回避のための支援と、口腔内トラブル（汚染・乾燥・潰瘍）ケア、嚥下訓練に力を入れて活動しています。
	小児救急	子どもの意思を尊重し、成長発達を促す看護を大切にしながら、子どもとその養育者のケアについて、迷うことを一緒に考えています。
がん・緩和	がん化学療法看護	抗がん剤治療を受けている患者さんに対して、病棟ラウンドやコンサルテーションを受け、セルフケア支援と精神的サポートをしています。
	乳がん看護	術式選択の意思決定支援や、患者さんが自分らしく療養生活を送れるよう支援しています。
	緩和ケア	がん・非がんに関わらず、診断早期から、身体・社会・精神的な辛さに対処し、その人らしく生きられるように支援しています。
慢性疾患	認知症看護	認知症疾患を抱えた方の疾病予防や重症化予防に貢献したいと考えています。症状相談、家族支援、ご相談に対応します。
	慢性心不全看護	心臓が悪化した時の心身の状態を把握し、改善に向けた介入方法や心疾患を抱えた状態での日常生活の過ごし方を一緒に考えています。
	慢性呼吸器疾患看護	呼吸器に障害がある方に対して、呼吸法や排痰の指導、病状に応じた自己管理が出来るよう支援しています。
	透析看護	CKDや透析を受ける患者さんとその家族が笑顔で過ごせるよう支援しています。在宅治療である腹膜透析は地域の皆さまの力が必要です。
全病院	皮膚・排泄ケア	創傷・ストーマケアのみならず昨年度より排尿ケアにも力を入れていきます。患者さん一人一人の尊厳を尊重したケアを目指しています。
	感染管理	医療器具に関連した感染症予防、防護用具適正使用、手指衛生の教育など、感染症に関連した予防策・発生した場合の早期収束の方策を立案します。
	精神看護専門看護師	患者さんの入院時における精神面でのサポートや、看護師のメンタルヘルス支援を、精神科医と協働しながら行っています。

### 認定・専門看護師への相談・教育のご依頼

代表:皮膚・排泄ケア認定看護師 / 相磯

TEL:03-3603-2111 (代表)



【認定看護師ホームページ】 [https://jikei-kango.jp/sub/katsushika/certified\\_nurse.html](https://jikei-kango.jp/sub/katsushika/certified_nurse.html)